

12月29日 マタイによる福音書2章1～23節

【解説と黙想】

エジプトへ逃れる

東方の学者たち

お生まれになった御子キリストを礼拝しにやって来たのは占星術の学者たちである。聖書には人数は記されていない。ただ複数形で書かれているだけである。「東の方」とはエルサレムから見て東であるから、ペルシャの異教徒たちであったと考えられる。彼らは星や月の動きを見て、世界や人々の運勢を占う人たちであり、この時も彼らは星を見て「ユダヤ人の王」の誕生を知り、拝むためにやって来た。

「ユダヤ人の王」だから、とりあえず都エルサレムに行こうということだったのかもしれない。しかしエルサレムまでたどり着いた彼らは、御子キリストがどこでお生まれになったのかを質問している。学者としての知識や力に頼ってキリストにお会いすることはできない。

わたしたちも真に神さまに出会うためにはどうしても御言葉が必要である。御言葉を通して神さまに出会い、神さまを知るということを覚えたい。ここで東方の学者たちをベツレヘムへと導いたのは、ミカ書5章の御言葉であった（6節）。

ヘロデ王の時代

ここに登場するヘロデは、後に出てくる同名の政治支配者たちと区別するためにヘロデ大王とも呼ばれる。ハスモン王朝（前143～37）をローマの力を借りて打倒し、ユダヤの王に任命された人物。彼はエドムの家系に属する者であり、ユダヤ人の好意を得ようとしてハスモン家出身のマリアンメ1世と結婚した。しかし、彼は最後まで自分の地位が脅かされることを恐れて生きた人である。まず、ハスモン家の血を引く者らを次々と殺し、ついには妻や子どもたちまで殺した。

そんな彼は「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか」と

言う学者たちの言葉を聞いて冷静でいられるはずがなかった。彼は学者たちに、見つかったら教えるように命じた（8節）。しかしだまされたと知り（16節）、ベツレヘムと周辺地域の2歳以下の男子を皆殺しにするよう命じた（16節）。

パスカルの『パンセ』に以下の記述がある。「ヘロデが殺させた二歳以下の子どもたちの中に、ヘロデ自身の子どももいたことをローマ皇帝アウグストが知ったとき、こう言った。『ヘロデの息子になるよりは、ヘロデの豚になる方が安全だ。』」

御子キリストの出エジプト

ヘロデ王の狂気の中でも、神の計画は確実に成就する。天使の御告げに従いヨセフは幼子イエスとマリアを連れてエジプトに逃げた（14節）。そしてヘロデが死ぬまでエジプトにとどまった。これがホセア書11章1節の成就として語られている。「わたしは、エジプトからわたしの子を呼び出した」（15節）。主イエスのエジプトからの帰還は、新しい出エジプトを告げている。御子キリストは、モーセに優る真の救い主として世に來られ、罪ある者たちを滅びから救いへと導かれるお方である。

2人の王

2人の「ユダヤ人の王」が登場している。ヘロデはユダヤの地を治めた王。御子キリストは「ユダヤ人の王」としてお生まれになり、十字架につけられた時、イエスの頭の上には「これはユダヤ人の王イエスである」という罪状書きが掲げられた（27：37）。

ひとは自分の立場を守るために、民の命を平気で奪う王であり、もうひとは、民を救うためなら自らの命をも惜しまず差し出す王である。このお方の民として生きていく恵みが差し出されていることを改めて覚えたい。（小橋口貴人）

12月29日 マタイによる福音書2章1～23節

【説教展開例】

エジプトに逃れる

◇..... 単元のねらい◇

ヘロデ王によってもたらされた残虐な出来事の中でも、神さまのご計画は確実に成し遂げられることを覚えたい。この箇所では、御子キリストとモーセの姿を重ねながら、民を滅びから救いへと導き出すキリストのお働きを学ぶ。またヘロデ王と「ユダヤ人の王」として生まれた御子キリストとを対比しながら、キリストが王としてご支配される神の御国の到来を語りたい。悲慘な世界の現実の中でも、確かに神の御国が到来していることと、御国の民として生きる喜びに招かれていることを伝える。

「王としてお生まれになったキリスト」

導入

先週の日曜日はみんなでクリスマスの礼拝を捧げました。イエスさまが、わたしたちを罪から救うために、この世界にお生まれくださったことを聖書から学びましたね。クリスマスの恵みを覚えながら、みんなは楽しい冬休みを過ごしていることとします。今日は今年最後の礼拝の日です。でも今日の聖書の箇所には、ちょっとドキッとするようなお話が教えられています。

イエスさまがお生まれになった時にユダヤの王さまをしていたヘロデという人が、ベツレヘムとその周りにいた二歳以下の子どもたちを皆殺しにしてしまうという怖いお話です。どうしてそのような怖いことが起こったのでしょうか。

東方の学者たち

イエスさまがお生まれになったことを知って、東の国から博士たちがやって来ました。クリスマスの劇で博士の役をしたことがあるお友だちはいますか？ 何人で

やって来たのでしょうか。聖書には人数は書いてありませんが、何人かで来たことがわかります。彼らは星を見るお仕事をしてきた人たちです。星を見て「あ、ユダヤ人の王が生まれたぞ」と分かったようです。博士たちはエルサレムまでやって来ました。でも、イエスさまがどこでお生まれになったのかはわかりませんでした。

博士ですから頭のいい人だったかもしれません。いろいろな知識を持っていたでしょう。でも、どこに行けばイエスさまにお会いできるのかはわかりませんでした。みんなはどうすれば神さまにお会いできるのでしょうか？ どうすれば神さまのことがわかるのでしょうか？ どれだけ頭のいい人でも、いろんなことをたくさん知っている人でも、自分の知識や経験で神さまに会うことはできません。わたしたちが神さまに出会い、神さまのことを知るのには、聖書の言葉を通してです。だから、みんなはこれからもたくさん聖書のお話を聞いて、御言葉を覚えてください。御言葉を通してわたしたちは神さまに出会うのです。

ヘロデ大王

博士たちはイエスさまがどこでお生まれになったのかを聞きました。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか」。これを当時ユダヤの王さまをしていたヘロデと言う人が聞いてしまいます。ヘロデ大王です。クリスマスの劇でヘロデ大王の役をしたことがある人はいますか？この王さまはずっと自分が王さまでいたいと思っていました。だから、自分の地位を脅かしそうな人がいたら、次々と殺してしまうという恐ろしい王さまでした。

そんなヘロデ王は、自分の他にユダヤ人の王として生まれた者がいるということを知り、冷静でいられるはずがありません。自分以外に王となる者が生まれたということが許せませんでした。そこで、ヘロデ王は博士たちに言いました「もし見つかったら教えてくれ。わたしも行って拝みたいから」。ヘロデ王はイエスさまを見つけたら殺してしまおうと考えたのです。

ところが、博士たちは「ヘロデのところへ帰るな」という夢を見て、そのまま自分たちの国へ帰ってしまいます。怒ったヘロデ王は、ベツレヘムとその周りの地域にいる二歳以下の男の子をみんな殺してしまうように命令しました。一人残らず、男の子は殺されました。ひどい出来事ですね。子どもを殺された親はみんな悲しんだでしょう。

でも、こうして預言者エレミヤを通して言われていたことが本当に起こりました。とマタイは伝えています。つまり、この出来事も神さまのご支配の中で起こったことなんだということです。神さまの御手の外側で起こってしまったのなら、わたしたちにはどうしようもないんですが、このこ

とも神さまがしっかりと治めておられるということです。

キリストの出エジプト

このようなひどい出来事が起こりましたが、イエスさまは助かりました。どこへ逃げたのでしょうか？お父さんのヨセフが、マリアとイエスさまを連れてエジプトに逃げていたんです。そのように御使いが教えてくれました。「エジプトに逃げなさい。しばらくエジプトに留まっていなさい」。そしてヘロデ王が死ぬと、イエスさまはエジプトを出てイスラエルに戻ってきました。そしてヨセフとマリアとイエスさまはナザレという村に住んだのですね。

どれだけヘロデ王がひどいことをしても、神さまのご計画は確実に成し遂げられていきます。イエスさまは、罪人を救うためにこの世界にお生まれになったのですから、そのことを成し遂げるために、しっかりと神さまが守られます。

ところで、このイエスさまの人生、誰かと似ていませんか？生まれた時に、他の男の子たちはみんな殺されてしまったけれども、守られて成長して、やがてエジプトを脱出した人がいましたよね。覚えていませんか？

はい、モーセですね。モーセが生まれた時、エジプトの王ファラオは「生まれた男の子は、一人残らずナイル川に放り込め」（出2：22）と命令しました。でも、モーセのお母さんがパピルスの籠にモーセを入れてナイル川の葦の茂みに隠しました。それでモーセは助かったのです。やがてモーセは、奴隷であったイスラエルの民を導いて、出エジプトしました。

イエスさまは、モーセに優る救い主です。

モーセがイスラエルの民をエジプトから導き出したように、イエスさまは、罪の奴隷となっているわたしたちを、救いへと導いてくださいます。博士たちは、イエスさまのことを「ユダヤ人の王としてお生まれになった方」と言いました。まさに、わたしたちを罪の呪いから救い出して、ご自分の民として守ってくださる王なんです。

2人の王

今日のお話には二人の「ユダヤ人の王」が出てきましたね。ヘロデはユダヤの地を治めた王。御子キリストは「ユダヤ人の王」としてお生まれになり、十字架につけられた時、イエスの頭の上には「これはユダヤ人の王イエスである」という罪状書きが掲げられました (27:37)。

ヘロデは自分が王さまでい続けるため

に、平気で民の命を奪う王さまでした。でも、もうひとりの王であるイエスさまは、民を救うためなら自らの命をも惜しまず差し出す王さまです。

ヘロデ王さまの国で生きていきたいというお友だちはいますか？ イエスさまが王としてご支配される国で生きていきたいというお友だちはいますか？ わたしたちは日本という国で生きています。この国の政治的指導者たちは、わたしたちをひどく扱うことがあるかもしれません。でも、目には見えないけれども、イエスさまが王としてご支配されている御国で、わたしたちは生きていくことができるのです。イエスさまはわたしたちを救うためにお生まれくださいました。御子のご降誕を喜びましょう。
(小橋口貴人)

《今週の暗唱聖句》

ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。(マタイ2章2節)

12月29日 マタイによる福音書2章1～23節

【幼稚科】

エジプトに逃れる

☆礼拝の説教で説かれたのは主イエスのエジプト下りでしたが、ここでは東方の学者たちによる御子に対する礼拝が記されています。クリスマスには親しい記事ですから、幼稚科の子どもたちにはこちらのお話をするほうがよいでしょう。この御言葉に因んだ米国のオペラ『アマールと3人の王様』（メノッティ作）のお話を紹介してもよいでしょう。日本では『ベツレヘムへの道』という題で、一色義子さんの絵本が出ています。お話の内容は次の通りです。

〈おはなし〉

ある村にアマールという少年がいました。彼は生まれつき足が悪く、杖をもたずに歩くことができませんでした。アマールは母親と二人で貧しく暮らしていました。ある晩、アマールは空に輝く大きな星を見つけました。そのことを母親に話しましたが、母親は少年の話を信じようとしませんでした。すると夜遅くに、誰かが家の扉をたたく音がしました。「アマール！ 見ておいで！」と母親に命じられて、アマールは床を出て戸を開けました。すると、そこに立っているのは、見たこともない豪華な衣装をまとった王さまでした。アマールはすぐに母親の元へ戻って、「母さん、王さまだよ！」と告げました。しかし、母親は信じようともせず、「なにをねばけてんだい！ もう一度よく見ておいで！」と少年を送り返しました。アマールはもう一度扉

を開けて外を見ました。すると、そこには3人の王様たちの一行がずらりと並んで立っていました。今度は母親も出てきてお辞儀をすると、王様たちは、新しく生まれた救い主を拝むために長い旅をしているところで、宿を貸して欲しいとのことでした。貧しい暮らしで旅人をもてなす余裕もない家でしたが、一行はアマールの家に一晩泊まることになり、母親は村人の助けを借りて、わずかなもてなしをしました。皆が寝静まったころ、母親は王様たちが持参して来た宝箱に近づきました。これがあれば貧乏から抜け出せると思ったのです。ところが、そこを見つかってしまい、家は大騒ぎになりました。ひたすら許しを乞う母親に対して、一人の王は、それが救い主へのささげものであること、しかし、それをあなたに提供することを申し出ます。母親は罪を悔いながら、自分の家にはその幼子にささげるのにふさわしいものが何もないことを嘆きます。すると、この一部始終を見ていたアマールは、顔を輝かせて「僕のこの杖をあげる！」と王様に差し出しました。その時、アマールは、自分が杖なしでも歩けるようになっていくことに気がつきました。そして、アマールは王様たちと一緒に、救い主に会うための旅に出ることに決めたのでした。

あなたなら、イエスさまに何をささげますか？

12月29日 マタイによる福音書2章1～23節

【小学科上級・中学科】

エジプトに逃れる

1. マタイによる福音書2章1～12節を読みましょう。東方から来た占星術の学者たちは、どこで「ユダヤ人の王」の誕生について尋ねましたか。その理由は何でしたか。そこには誰がいましたか。
2. 預言者の言うとおりにベツレヘムに来たのに、学者たちはイエスさまを見つけることができずにいました。それはどうしてだと思いますか。
3. ヘロデ王は学者たちに何と言って送り出しましたか。またその理由は何ですか。学者たちはヘロデ王の言うとおりにしましたか。なぜそのようにしたのでしょうか。
4. マタイによる福音書2章13～18節を読みましょう。ヨセフは夢で天使に何と言われましたか。その結果、どこに行きましたか。
5. ヘロデ王は事の次第を知り、その後何をしましたか。
6. マタイによる福音書2章19～23節を読みましょう。イエスさまたちはエジプトを出てどこに行きましたか。何のためにそうしたのでしょうか。
7. ここに出てきた「二人の王」について、それぞれ考えてみましょう。